

高校1年商業科 科目「簿記」

## 「企業会計における財務諸表作成から学ぶ家計での金銭教育」

### 実践の目指しているもの

消費者教育の中の契約・取引の領域における、「家計を適切に管理し、合理的な生活設計やお金の使い方ができる」という目標に対して、科目「簿記」の中で、自分のお金について考えさせる。

決算の単元における貸借対照表および損益計算書の指導後に、企業会計における処理の確認として、一月間の自分の生活を想定した内容を仕訳し、財務諸表を作成することにより、自らの家計におけるお金について考えさせる。

### 研究の内容

#### 1. 題材名(単元名)

「決算(初級)」

#### 2. 題材の目標(単元の目標)

企業における経営成績と財政状態をどのようにして明らかにするのか理解させる。決算の意味とその手続き、精算表の作成および損益計算書と貸借対照表の作成など、決算手続きの処理を学ばせる。

#### 3. 題材の指導計画(6時間扱い)

- |                    |           |
|--------------------|-----------|
| (1) 決算の意味と手続き      | (1時間)     |
| (2) 精算表の作成         | (1時間)     |
| (3) 総勘定元帳の締切りと振り替え | (1時間)     |
| (4) 試算表の作成と仕訳帳の締切り | (1時間)     |
| (5) 損益計算書と貸借対照表の作成 | (2時間/2時間) |

#### 4. 本時について(6時間/6時間)

##### (1) 本時の目標

前時に行った損益計算書と貸借対照表の作成の確認として、自分の生活を簿記の手順で処理することで自分の財政状況や経営成績(収益性)を知り、自己の家計管理について考えさせる。

##### (2) 体験的な活動について

自分の生活の中でのお金の流れを処理する(簿記の家計簿的利用)

##### (3) 札幌らしい特色をもたせた教材開発について

簿記では該当なし。ただし、簿記の発展科目、「会計」では、札幌市のバランスシートを利用して財務諸表を作成し、自分の住む街を知り、良き市民として生活するためのヒントを得るという展開は可能である。

(4) 本時の学習展開例

学習内容・活動等	教師のかかわり・留意点等
<p>導入：損益計算書と貸借対照表の作成について確認する 前時の演習問題で作成方法を確認する</p> <p>(全体的に理解が不足している生徒には事前の補助プリント等を利用して確認する)</p> <p>展開：1. 前時に行った損益計算書と貸借対照表の作成を応用し生活の中の一月間でのお金の流れを仕訳する</p> <p>2. 仕訳を総勘定元帳(勘定口座)に転記する(集計する)</p> <p>ここで残高の概念を再度確認する(計算させる)</p> <p>3. 損益計算書と貸借対照表を作成する</p> <p>4. 自分のお金の流れについて考えさせる</p> <p>企業の取引では、信用(掛け)取引が一般的であり、利益と現金有高とは必ずしも一致しない。そのため、売上(収益)があっても現金がないために費用などの支出が払えない状況になり、黒字倒産となることもあることを知らせる。 (そのため企業はキャッシュフロー計算書を作成している)</p> <p>現金があり、利益が出ていても債権(売掛金等)・債務(借入金等)に注意をはらう必要があることを知らせる。</p> <p>まとめ：損益計算書と貸借対照表の確認</p> <p>お金の使い方の確認</p>	<p>前時の財務諸表作成について理解しているか確認</p> <p>補助プリント ~ の確認</p> <p>プリント 配布 答え合わせ</p> <p>プリント 配布 板書で答え合わせ</p> <p>板書を利用した解説</p> <p>プリント 配布 板書で答え合わせ</p> <p>プリント へ記入させる</p> <p>この問題となった人物のお金の使い方はどうだったか 生徒に発問する</p> <p>利益を計上している面に注目させる</p> <p>債権・債務に注目させる</p>